

# 農作物技術情報 第4号及び特別号の要約

令和8年6月25日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p><b>生育状況</b>: 6月24日現在の生育(県平均)は、草丈、茎数、葉数、葉色値ともに平年を下回っており、地帯や品種により生育に差が見られている。</p> <p><b>技術対策</b> 目標茎数を確保したら、直ちに中干しを始める。 今後の気象予報や生育ステージに応じて、計画的に水管理に努めるとともに、いもち病・紋枯病、カメムシ類の発生予察情報を確認しながら適正な防除を実施する。</p>
畑作物	<p><b>生育状況</b>: 県中南部を中心に、6月下旬から小麦の収穫が行われている。大豆は播種作業が順調に進んでいる。</p> <p><b>技術対策</b> <b>小麦</b>: 赤かび病の発生が多い場合や発生圃場で倒伏が見られた場合は、仕分け刈取りを行う。子実水分が30%以下になり次第、速やかに収穫する。粒厚選別、比重選別等による調製を実施し、かび毒の含有濃度の低減に努める。 <b>大豆</b>: 降雨による滞水を生じないよう排水溝を確認する。中耕は、雑草が発生し始めてから行い、培土は株元までしっかり土を寄せて、高さが一定になるよう行う。また、難防除雑草の対策は早めに行う。</p>
野菜	<p><b>生育状況</b>: 施設果菜類の生育は概ね平年並み。露地果菜類の生育は、定植後の強風や低温等により平年並みからやや遅れである。葉茎菜類の雨よけほうれんそう、ねぎ、高冷地のレタスは概ね良好な生育で、キャベツは生育が遅れている。</p> <p><b>技術対策</b> <b>全般</b>: 大雨に備え、排水対策を徹底する。 <b>果菜類【施設】</b>: 梅雨時期の草勢維持対策と病虫害の初期防除を徹底する。 <b>果菜類【露地】</b>: 生育に応じた整枝管理と病虫害の初期防除を徹底する。 <b>葉茎菜類</b>: 雨よけほうれんそうはハウスの換気やほ場水分管理を適切に行い、病虫害の発生や生育停滞を防ぐ。キャベツ、レタスはコナガ、オオタバコガ等の適期防除に加え、腐敗性病害対策として降雨前後の防除を行う。ねぎは生育状況を見ながら培土を行う。</p>
花き	<p><b>生育状況</b>: りんどうの生育は、平年並みからやや早くなっており、極早生品種の開花が始まっている。小ぎくの生育は平年並みとなっている。</p> <p><b>技術対策</b> <b>共通</b>: 大雨に備え、排水対策を徹底する。 <b>りんどう</b>: 褐斑病、黒斑病、ハダニ類、リンドウホソハマキ等の病虫害防除を徹底し、適期に収穫する。 <b>小ぎく</b>: 白さび病、オオタバコガ等の病虫害防除を徹底する。伏せ込み用親株の選抜は収穫前に行う。</p>
果樹	<p><b>生育状況</b>: りんごの結実率は概ね平年並みだが、中心果結実率は平年より低い傾向がみられる。ぶどうの生育は平年より進んでいる。</p> <p><b>技術対策</b> <b>りんご</b>: 良質な果実を見極めつつ、摘果を進める。 <b>ぶどう</b>: 結実を確認のうえ、状況に応じた適切な摘房、摘粒を進める。 <b>共通</b>: 病害に対する降雨前の予防散布に努める。園地や周辺での害虫の発生状況を観察し、防除する。</p>
畜産	<p><b>生育状況</b>: 飼料用とうもろこしは、除草剤の生育期処理の時期である、4～7葉期となっている。</p> <p><b>技術対策</b> <b>牧草</b>: 2番草の収穫は、オーチャードグラスは1番草収穫後40～50日、チモシーは1番草収穫後55日を目安とするが、25℃以上の高温が続く時期の収穫は避ける。刈取り高さは10cm以上とする。 <b>飼料用とうもろこし</b>: 除草剤の茎葉処理は、雑草種を特定して効果のあるものを選択する。タマナヤガ類、ヨトウムシ類の葉の食害がある場合は、その程度により防除を行う。 <b>家畜</b>: 夜間も送風を行い、牛体温の低下に努める。ビタミン類、重曹等の給与で、暑熱の影響を緩和する。</p>
野生獣	<p><b>野生獣対策</b>: 草刈りや収穫残さの撤去で野生獣をよせつけない。電気柵、センサーカメラを有効に活用する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全：事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は令和8年7月30日(木)発行の予定です